

函館大学付属柏稜高等学校
自己点検・自己評価報告書
(令和5年度)

令和6年9月
学校法人野又学園
函館大学付属柏稜高等学校

令和5年度 自己点検・自己評価報告書 目次

各年度における取組状況	1
-------------	---

I. 教育活動

1. 教育理念と教育目標	2
2. 教育課程	2
3. 学習指導	3
(1) 教科の指導	
(2) 資格試験	
(3) 成績評価	
(4) 生徒による授業評価	
4. 進路指導	6
(1) 卒業生の進路状況	
(2) キャリア教育（3年間見通しての進路指導）	
(3) 関連校連携（キャリアデザインプログラム）	
(4) 進学指導	
(5) 就職指導	
5. 生徒指導	7
(1) 基本的な生活習慣の確立	
(2) 生活行動面の指導	
6. 生徒会・クラブ活動	8
(1) 生徒会活動の活性化	
(2) クラブ活動の奨励	
(3) 生徒会クラブ予算の編成見直し	

II. 学校運営

1. 学生受入れ	9
(1) 生徒募集	
(2) 入学試験	
(3) 1年生対象入学後アンケート	
(4) 入学金減免制度	
2. 組織運営	12
(1) 教員の組織	
(2) 教員の個人年度目標・計画	
(3) 職員の組織	
(4) 教員による学校評価	
(5) 学校関係者による学校評価	
3. 地域連携	14
(1) 地域社会への貢献	
(2) PTA活動	
(3) 同窓会活動	
4. 校内研修	14
(1) 授業・学習指導方法の改善	
(2) 危機管理	
5. 施設・設備等	16
(1) 図書室の運営	
(2) 保健室の運営	
(3) 施設・設備	
6. 管理・運営	19
(1) 安全教育・安全対策	
(2) 財務関係	

各年度における取組状況

	大項目	中項目	H31	R2	R3	R4	R5	
I 教育活動	1. 教育理念と教育目標			○	○	○	○	
	2. 教育課程		○	○	○			
	3. 学習指導	(1)教科の指導		○	○	○	○	○
		(2)資格試験			○			
		(3)成績評価		○	○	○	○	○
		(4)生徒による授業評価		○		○		○
	4. 進路指導	(1)キャリア教育（3年間見通しての進路指導）		○	○	○	○	○
		(2)関連校連携（キャリアデザインプログラム）				○		○
		(3)進学指導		○	○	○	○	
		(4)就職指導		○	○	○	○	
	5. 生徒指導	(1)基本的な生活習慣の確立		○			○	○
		(2)生活行動面の指導					○	○
	6. 生徒会・クラブ活動	(1)生徒会活動の活性化		○	○	○	○	○
		(2)クラブ活動の奨励		○				○
II 学校運営	1. 学生受入れ	(1)生徒募集		○	○	○		○
		(2)入学試験			○	○		
	2. 組織運営	(1)教員の組織					○	○
		(2)教員の個人年度目標・計画		○		○		○
		(3)職員の組織			○			○
		(4)教員による学校評価				○		○
		(5)学校関係者による学校評価		○		○		○
	3. 地域連携	(1)地域社会への貢献		○				○
		(2)PTA活動						○
		(3)同窓会活動						○
	4. 校内研修	(1)授業・学習指導方法の改善		○	○	○	○	
		(2)危機管理		○		○		○
	5. 施設・設備等	(1)図書室の運営		○			○	
		(2)保健室の運営						
		(3)施設・設備		○	○	○	○	○
	6. 管理・運営	(1)安全教育・安全対策		○		○		○
		(2)財務関係		○			○	○

※表中の○印はその年度中に改善に向けての取り組みのあった項目を示している

I. 教育活動

1. 教育理念と教育目標

創立者の掲げた学園訓三か条「報恩感謝・常識涵養・実践躬行」の下、創立者の「建学の精神とは学園訓の三か条を具体的信条として、知・情・意を高度にして、しかも円満に発達させる真の学問追及をすることである」との精神を学校経営の根幹に据え、式典や行事など機会ある毎に触れている。

建学の精神・理念にもとづいて作成した中期経営計画を念頭に置きつつ、これからの新たな社会の変化に対応し、社会で求められる人材を育成していくために、「自ら学び続ける姿勢」「自立」「感謝・思いやり・良識」をキーワードとして、学校生活の様々な面で、生徒主体の活動を促すよう心掛けた。

【現状と課題】

令和5年度も教職員で共有している「自立」というビジョンを意識しながら各種の教育活動を実施した。授業においても学校行事においても、生徒自身が考え行動する場面が増え、特に、新学習指導要領の柱になるとされる「総合的な探究の時間」における学びは、生徒が自ら課題を設定し、調査し、考察し、発信するといった活動が、今までに無い程、活発に行われていた。こうした学びを今後、各教科の中においても意識していかなければならない。

また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、各種教育活動の制約が緩和され、コロナ禍以前の教育活動を少しずつ取り戻すことができた。とは言え、「コロナ禍以前に戻す」というスタンスではなく、以前の教育活動とコロナ禍に学び得たものを取捨選択、または融合させ、より良い教育活動を目指した。

2. 教育課程

令和4年度1年生から新学習指導要領に基づいた新教育課程を適用した。また、それに伴う観点別評価については、令和3年度に行った内規の見直しや校内研修をもとに、適切に運営することができた。

令和4年度から令和6年度までかけて、学年進行で移行していくが、特に令和4年度に続き、令和5年度についても、教育課程・評価方法共に、旧課程生と新課程生が混在するため細心の注意を払い、丁寧かつ慎重に運用した結果、問題なく教育活動を展開することができた。

【現状と課題】

近年、進学希望者が急増しているが、進学・就職を問わず、社会に貢献していくために必要な能力、生涯に渡って学び続け成長し続けるための能力の育成が必須である。入学時の学力は決して高くはないが、本校の教育課程に基づいた指導を実施する中で、3年間かけて基礎学力と学習力を向上させるべく指導を行ってきた。

I C T活用能力、外国語によるコミュニケーション能力、卒業後も生涯に渡って学び続ける資質と能力をはじめ、これからの社会で求められる資質と能力を養成するために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業はもちろん、特別教育活動の中においても教育の在り方を見直している。今後も様々な課題が生まれることが予想されるが、変化を恐れず、出てきた課題一つひとつに向き合い改善を進めていかなければならない。

進路希望状況を鑑みると、日常の授業のレベル設定を少しずつ上方修正していく必要があるが、入学者の学力幅が広いと、丁寧かつ細心の注意を払って指導していくことが必要である。

3. 学習指導

(1) 教科の指導

令和5年度は、全学年の生徒に iPad が貸与され、ICT活用が大幅に進んだ。ICT活用委員会による教員研修や教員間の自主研修によりICT活用の試みが様々な形で進み、試行錯誤しながらも確実に前進している。

全生徒にアカウントを発行している office365 の活用も増え、アンケート・小テスト・検定対策・各種案内と申込み・健康観察等、多くの場面でICTを活用している。教員の活用と同時に、学校行事等における生徒の主体的活用も見られた。

通常の授業においては全ての教科・科目において「基礎基本の徹底」「基礎学力・学習力の向上」を意識して指導を行った。また、講義型の授業から生徒の主体的な学びへの進化を目指して授業改造を目指した結果、生徒の頭の中がアクティブになるような生徒主体の活動場が増えてきている。とは言え、まだまだ受け身の学習をする生徒が多く、今後、より主体的な学びの姿勢を育てる、引き出す学習指導を展開していかなければならない。また、授業の難度設定については、近年の進路志望動向の変化、つまり、進学希望者の増加を考えると、基礎基本を大切にしつつも、少しずつ難度を上げていく必要がある。

「スタディサプリ」についてはしっかりと定着し、非常に高い視聴率となっている。学び直し、反転授業、検定取得、受験対策等、多くの場面で活用してきたが、令和4年度の1年生から、スタディサプリのコンテンツの一つを活用して総合的な探究を行うなどの新たな活用も行った。また、進路決定後、大学入学後に備えて自主的に視聴する生徒も現れた。

(2) 資格試験

以前の反省から、案内する資格試験を精査し、事前講習などによってしっかり指導できるものに絞って実施した。

商業関係の検定における知識問題部分の学習に Forms を活用したり、英語検定対策としてスタディサプリや Englishcentral を活用したりするなど、資格取得に当たってもICT活用を進めている。ただし、自信がないのか、受検者がまだまだ少ない現状であり、資格取得にチャレンジする生徒を増やす取り組みを検討していく必要がある。

(3) 成績評価

観点別評価の実施に向けて、令和3年度まで観点別評価委員会からの研修を行ってきた結果、適切に実施することができた。日頃から評価観点を念頭に置いた指導を行い、試験問題作成、実際の評価に至るまで、教科担当者間で綿密に連携を取りながら、3観点を意識しつつ、公平公正な評価を行うことができた。

(4) 生徒による授業評価

＜授業、学校生活、行事や施設設備に関するアンケート＞

年度末アンケートの調査結果から、授業や学校生活の満足度に関する部分に注目すると5ページに示したグラフの通りであった。授業については肯定的な回答が多く、特に、学年が上がるにつれて満足度が向上している点は良い点かと思われる。ただし、入学時学力を考慮しつつも、進路希望の変化に合わせて授業のレベル設定ならびに試験のレベル設定を見直し、向上させていく必要がある。同時に、評価基準・方法について、常に留意しながら、それぞれの進路希望実現に向けた指導を行っていかねばならない。

【現状と課題】

生徒の進路希望動向の変化と新学習指導要領への対応、そして何より社会有為の人材を育

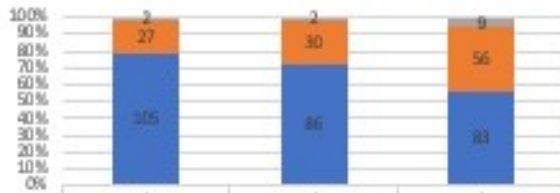
成するために、学習指導を改善していくことが急務である。特に、現在の、そしてこれからの学びにおいては、「ICTを活用して学ぶ」というスキルや経験が重要であると思われるため、令和6年度以降は、授業者がICTを活用することに加え、生徒自身がICTを活用する場面を増やしていかねばならないと考える。以前から準備を進めていたため、本校においては公立高校に先んじて、令和5年度には全学年がICT端末を所持する状況となった。今後もすべての授業や教育活動において、ICT活用をより一層推進していく。

また、高校生が進路について考える上で、当然「学力」も大切な要素となるが、本校に関して言えば、進路実現に向けてスタートする時期が遅い生徒が多く見受けられる。令和5年度は第2学年の模擬試験受験状況などで改善が見られたが、今後も一層推進していくことが必要である。学習に対する意欲が高い熱心な生徒が増えているからこそ、少しずつでも努力を始める時期を早めていきたい。

令和4年度末

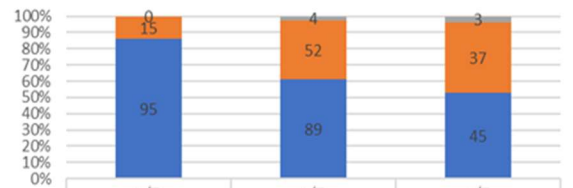
令和5年度末

柏稜で高校生活を送って良かった (3年)
柏稜に入学して良かった (1・2年)



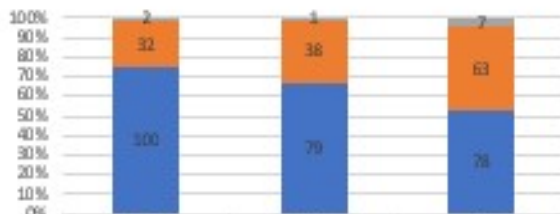
	3年	2年	1年
■ そう思わない	2	2	9
■ ややそう思う	27	30	56
■ そう思う	305	86	83

柏稜で高校生活を送って良かった (3年)
柏稜に入学して良かった (1・2年)



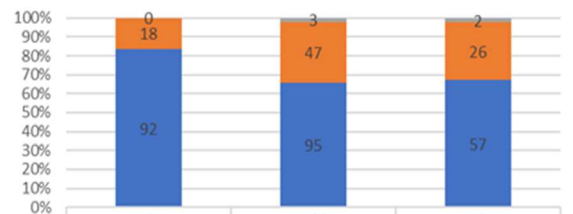
	3年	2年	1年
■ そう思わない	0	4	3
■ ややそう思う	15	52	37
■ そう思う	95	89	45

学校生活が充実していた



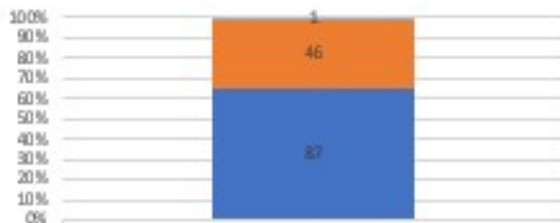
	3年	2年	1年
■ そう思わない	2	1	7
■ ややそう思う	32	38	63
■ そう思う	300	79	78

学校生活が充実していた



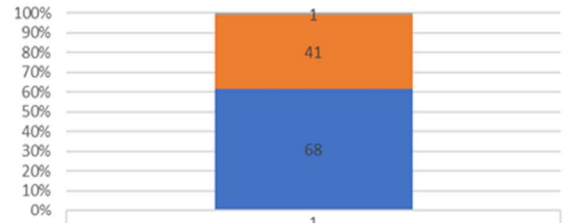
	3年	2年	1年
■ そう思わない	0	3	2
■ ややそう思う	18	47	26
■ そう思う	92	95	57

柏稜の授業は分かりやすかった (3年)



	3年
■ そう思わない	1
■ ややそう思う	46
■ そう思う	87

柏稜の授業は分かりやすかった (3年)



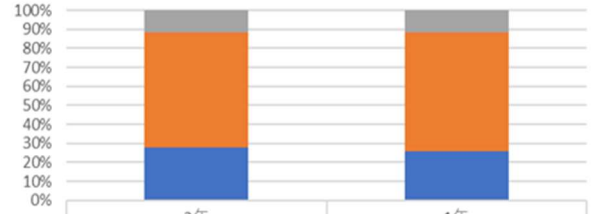
	3年
■ そう思わない	1
■ ややそう思う	41
■ そう思う	68

分かりやすいと思う授業数 (1・2年)



	2年	1年
■ 3教科以下	12	19
■ 4~6教科	76	89
■ 7教科以上	30	40

分かりやすいと思う授業数 (1・2年)



	2年	1年
■ 3教科以下	17	10
■ 4~6教科	88	53
■ 7教科以上	40	22

4. 進路指導

(1) 卒業生の進路状況

卒業生の進路状況と進学者の内訳

卒業年度	大学	短期 大学	専修・各 種学校	看護・医 療系	進学者計 ()内%	就職者計 ()内%	その 他	卒業生 総数
平成 31 年度	18	7	29	9	58(63.0)	33(36.0)	1	92
令和 2 年度	20	5	35	15	75(67.0)	34(30.4)	3	112
令和 3 年度	23	12	61	18	96(85.0)	15(13.3)	2	113
令和 4 年度	26	10	58	17	94(69.9)	36(26.7)	5	135
令和 5 年度	21	12	52	19	85(78.0)	23(21.1)	1	109

就職者の内訳

卒業年度	管内	道内	道外	自衛隊・ 公務員	その他	就職者計
平成 31 年度	24	3	0	6	0	33
令和 2 年度	28	4	0	2	0	34
令和 3 年度	14	0	1	0	0	15
令和 4 年度	33	0	0	3	0	36
令和 5 年度	20	1	0	2	0	23

(2) キャリア教育

令和元年度から、より効果的な進路学習を目指し、外部業者と連携した活動も組み入れながら、生徒にフィットしたストーリー性のある進路指導プログラムを企画している。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、上級学校や進路関係業者の多様なイベントの中から、本校生徒に必要なものを吟味して実施することができた。また、総合的な探究の時間の一部に進路探究を組み込み、効果的に学ばせることができた。

(3) 関連校連携（キャリアデザインプログラム）

学園関連各校の協力を得て平成25年度にキャリアデザインプログラムがスタートした。

実施効果については、受講生の進学先での学修状況を調査することで検証可能と思われるが、現時点ではサンプル数が少ないため、今後さらにデータを蓄積することで分析を進めたい。ただし、3年生で実施する総まとめのプレゼンテーションやCDPアンケートから、我々が予想した以上に多くのことを生徒が学んでいることが如実に感じられる。

令和4年度に比べ、新型コロナウイルス感染症による制限も徐々に緩和されており、生徒の糧となるプログラムを実施することが出来た。

(4) 進学指導

大学・短大・専門学校等、校種を問わず進学者の多くが学校推薦型選抜（推薦）、または総合型選抜（AO）で出願している現状から、面接指導・小論文指導など推薦入試対策を充実させてきた。その一方で、看護・医療系などを意識した一般受験対策講習や個別指導も継続しており、令和5年度は看護師・理学療法士・作業療法士など医療系全体で19名が合格した。年度による在籍数の差があり、看護・医療系進学希望者数に多少の変動はあるが、年々合格者を増やしている。

(5) 就職指導

「学び直し」の徹底、面接指導の強化、資格取得の推進、地元企業との信頼関係構築と情報収集などを進めてきた。

令和5年度も大きな混乱なく、早い時期から求人票閲覧・企業見学・就職カウンセリングなどの準備にしっかり取り組み就職活動を進めることができた。

就職希望者個別カウンセリングの回数や実施時期の見直し、長期休暇中のカウンセリング実施など、ハローワークとの連携を一層強化した。各種検定への挑戦や夏季休業中からスタディサプリーを利用したSPI対策に取り組む等、積極的な準備のお陰で、就職希望者全員が内定を得ることが出来た。

【現状と課題】

キャリアデザインプログラムは生徒が進路を考える上でも、広報的な意味でも非常に有意義である。また、通常の進路学習についても、断片的・イベント的な取り組みに終わらず、3年間を見通したストーリーのある指導を目指して改善を進めている。

近年、進路指導の見直しを進めており、以前に比べて早い時期から進路について考える機会が増え、3年生になってから「入れる大学」「入れる企業」を探すのではなく、1・2年生のうちから「行きたい大学」「行きたい企業」を意識するようになった。

課題としては、進路目標を定めた後の「進路実現に向けた努力のスタート時期を早めること」が挙げられるが、令和5年度においては、模擬試験受験などの面では少しずつ意識が高まっていることが感じられた。放課後講習や長期休暇中の講習の充実、スタディサプリーの全学年導入等、進路実現に向けた学習環境は整っている。教員側が生徒の可能性を信じて、1・2年生のうちから目標達成・自己実現のための努力の必要性を働きかけていきたい。

5. 生徒指導

(1) 基本的な生活習慣の確立

「自立」した生徒を育成していく上で、基本的な生活習慣を確立することは不可欠であることを再確認し、「小さなこと」を「小さなうちに」ということを意識して指導に当たった。小さな気の緩みや小さな甘えを「このくらいは……」と見過ごしてしまうと、その緩みや甘えは次第に膨らみ、生徒の「自立」を阻害することになる。卒業後、進学・就職でそれぞれの道に進む生徒を在学中に大人として「自立」させるために、「小さなこと」「小さなうちに」を大切にしたい。

また、今まで「丁寧な指導」、「たくさん手を掛ける指導」を意識するあまり、生徒が出来ることにまで教員が手を出してしまっているのではないかという反省から、「出来ることは生徒自身に取りませ、それを見守る指導」への転換を意識しながら業務に当たった。

令和6年度以降も継続して「生徒自身に考えさせ、行動させる」ことを目指し、様々な取り組みの中で、「出来ることは生徒自身に」取りませ、見守ることを心掛けていく。

(2) 生活行動面の指導

「生徒一人ひとりに向き合う、統一した基準の生徒指導」「温度差の無い指導」「問題行動の未然防止・再発防止」を目標として活動した。

発生した生徒事故については、生徒指導規定と内規を基準としてしっかり判断することができた。問題行動により何らかの処分を受けた生徒に対し、普段の授業やクラブその他に関わりのある生徒か否かに関わらず、非常に多くの教員が面談を行ってくれたが、生徒の日記の記

載や生徒自身の声によれば、様々な教員からの話が生徒自身の行動を振り返ることにつながっており、令和6年度以降も出来るだけ多くの教員が関わるようにしていく。

また、長期休業明けの頭髪検査等で注意を受ける生徒がほぼいなかった点は、これまで目指してきた「統一した基準の生徒指導」「温度差の無い指導」の効果が少しずつ表れてきた成果と思われる。

【現状と課題】

生徒の「自立」を意識した指導、時代の変化等に合わせた、抑えつけるのではなく理解させる指導へと変容してきている。また、「ブラック校則」が社会で注目されるようになり、文部科学省からも校則が適切なものか否かを確認するよう通知が出され、本校においても校則の見直しを行った。令和6年度も継続して校則や指導内規等を確認していきたい。

問題行動は以前ほど多くはないが、不登校歴や不登校傾向のある生徒、中学校では不登校と見做されないが保健室登校・別室登校をしていた生徒も数多く入学している。その結果、以前であれば高校入学の時点で身につけていたであろう様々な習慣や一般常識的なことを理解していない生徒、コミュニケーションに問題を抱える生徒が増えた。預かった以上、高校3年間で「自立」した大人になれるよう、懸命に指導に当たっているが、連携しながら指導していける保護者はともかく、中には子どもにしっかり指導できずに保護者が許してしまうケースも出てきており、保護者の指導から始めねばならないため、担任・学年団が対応に苦慮している現状がある。

6. 生徒会・クラブ活動

(1) 生徒会活動の活性化

本校のビジョンである「自立」の実現に向けて大きな効果が期待できるものの一つが、生徒会活動・委員会活動であることを念頭に置き、生徒の主体的な活動を促した。各行事の運営に当たり、教員が指示を出すのではなく、事前に生徒間で話し合いを行わせた上で教員が助言していくということを意識した。

コロナ禍において、「コロナ禍でもできること」を模索しながら効果的な行事運営を目指してきたが、令和5年度は、コロナ禍で得たICT活用の手法や、企画の工夫を生かしつつ、生徒の手による行事運営を心掛けた。

一つひとつの行事における準備には今までよりも時間が掛かるようになり、教員の負担はむしろ以前より大きくなったが、話し合いを重ねる中で生徒が成長していく姿が見られた。

(2) クラブ活動の奨励

クラブを活性化し、クラブ活動を通して生徒の成長を促すためにクラブ活動の在り方を考える機会を作った。教員だけが考えるのではなく、教員と生徒でクラブの目標や活動に当たっての約束事等を考え、それを意識しながら活動していこうという狙いであった。学校の教育活動の一環としてクラブ活動がある以上、何らかの教育的効果が求められる。勝利至上主義ではないし、また、単なるレクリエーションになってもいけない。令和6年度以降も野又学園と本校のクラブ活動方針を踏まえつつ、生徒・保護者の期待に応える活動、生徒の成長につながる活動を模索していきたい。

(3) 生徒会クラブ予算の編成見直し

課題であった生徒会予算のクラブ部費に関しては、過去の前年度に縛られることなく、(クラブ顧問と主将もしくは部長との間で必要経費を検討) → (購入希望用紙の提出) → (顧問会

議) → (予算の見直し) → (次年度の予算案の決定) という手順を進めるよう見直しを図ってきた。令和6年度予算の編成に当たり、教員間にこの趣旨がかなり浸透してきた。

【クラブ加入率の推移】

	H30 (385名)	H31 (330名)	R2 (389名)	R3 (395名)	R4 (414名)	R5 (355名)
運動部	178(46.2%)	160(48.5%)	196(50.4%)	201(50.9%)	182(44.0%)	172(48.5%)
文化部	71(18.4%)	60(18.1%)	49(12.6%)	45(11.4%)	47(11.4%)	49(13.8%)
合計	249(64.7%)	240(72.7%)	245(63.0%)	246(62.3%)	229(55.3%)	221(62.3%)

教員数とクラブ数の関係で、以前は一人顧問のクラブがほとんどであったが、クラブ以外での生徒対応の増加や、事故・怪我への対応などを考慮し、できる限り二人顧問とすることを目指してきた。ただし、令和5年度は教職員数の関係で1運動部、4文化部を一人顧問とせざるを得なかった。また、複数クラブの顧問を兼務する教職員もおり、令和6年度以降、も大きな課題となる。

【二人顧問の割合】

	H31		R2		R3		R4		R5	
	運動	文化	運動	文化	運動	文化	運動	文化	運動	文化
全クラブ数	12	10	12	7	12	7	12	6	12	6
二人顧問のクラブ数	12	1	9	2	9	3	7	1	11	2
二人顧問のクラブの割合 (%)	100	10.0	75.0	28.6	75.0	42.9	58.3	16.7	91.2	33.3

【現状と課題】

生徒会ならびに委員会の活性化は順調に進んでいる。「自立」を目指し、生徒の主体的な活動を大切にしていくことで、より活発な活動とより高い教育効果が期待できる。

クラブ活動については、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症に伴う全国一斉臨時休業やクラブ活動制限などの影響による加入率の低下、現有教員数とクラブ数のアンバランス、労働基準法に則った教員の勤務時間の制限など、難しい問題が山積している。それらに関連した見直しが必要な反面で、大きな教育的効果・意義を持つものでもあるので、令和6年度以降も活性化に努めたい。

II. 学校運営

1. 学生受入れ

(1) 生徒募集

広報活動は本校の教育活動を広く正確に知ってもらう上で非常に重要である。本校は広報活動として主に次の①～⑥の6項目に力を入れて取り組んでいる。

① ホームページによる学校ニュースの掲載

中学校における一人一台端末が実現し、進路学習における積極的活用が始まっている。令和5年度にはホームページのリニューアルを実施した。リニューアルにあたって、学校案内とのリンクや、生徒自身の個人端末ならびに中学校で使用する個人端末での検索等

も視野に入れて内容を刷新した。リニューアル後はニュース更新を増やし、年間 60 回、ニュースをアップして本校の魅力を伝えられるよう努めた。

② 学校見学会

新型コロナウイルス感染症 5 類移行をうけて、参加対象の限定を解除した。また、従前通り、本校生徒が様々な役割で参加することによって、柏稜の雰囲気をもっと身近に感じてもらうように思う。「学校説明」「学校紹介 DVD 上映」「歓迎演技・演奏」「高校授業体験」「スタディサプリ体験」「柏稜座談会」「クラブ体験」「ALT・ESS 部による英語コミュニケーション体験」等、多彩なプログラムで開催したが、アンケート結果によればいずれも好評であった。令和 6 年度以降も、新型コロナウイルス感染症の動向に留意しつつ、本校の魅力を PR できる見学会を模索したい。

【学校見学会の参加状況】

	H31		R2		R3		R4		R5	
	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回
生徒	164	117	97	166		211	100	81	105	110
保護者	73	51							43	52
教育関係	3	3								
小計	240	171	97	166					148	162
合計	411		263		211		181		310	

③ 中学校進路学習会への講師派遣

【中学校の進路学習会への講師派遣依頼件数】

年度	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
校数	15 校	12 校	14 校	13 校	16 校	14 校	18 校

中学校での進路学習会への講師派遣依頼校数は上表の通りである。

以前は 3 年生を対象としたものが中心であったが、近年 1・2 年生を対象としたものも増加傾向にある。実施形態は、体育館等での一斉講話、教室毎に分かれて希望する高校の講話を聞くもの、全体講話の後にブース形式に分かれるものなど様々である。

令和 5 年度は 18 校で、延べ 882 名に進路講話を行った他、総合学習や宿泊研修において 7 校の中学校から延べ 48 名が来校した。また、中学校の P T A 研修で 1 校 10 名が来校した。

これらの機会を利用して本校の取り組みを伝えることは広報的に非常に大きな意義を持っている。広報によって中学生ならびに保護者の興味を喚起しなければ、そもそも選択肢には入らない。選択肢に入った後は、在校生にどれだけ充実した指導ができていくかが問われる。広報の充実と教育内容の充実を両輪として、今後も活動していく。

④ 学校の訪問

コロナ禍においては年間 2 回の中学校訪問を行っていたが、令和 5 年度からコロナ以前に戻し、5 月に受験・入学のお礼と卒業生の進路報告を中心とした訪問、7 月に学校案内配布と学校説明、在校生報告、その他情報収集を中心とした訪問、10 月に入試要項ならびに Web 出願マニュアルの配布と進路決定に向けた最終の学校説明を中心とした訪問を行った。また、卒業生・在校生のいる中学だけでなく、過去の実績も参考に訪問校を増やした。

⑤ 報道関係の対応

北海道新聞、北海道新聞みなみ風、函館新聞、北海道通信を中心に教頭が対応している。各種行事やクラブの各種大会等の際には、教頭や担当分掌の教員・クラブ顧問が適宜対応している。また、NCVやラジオ等の取材も学校長の許可を得た上で、同様に対応している。広報すべき諸活動は年間行事計画でチェックし、その事前・事後に報道関係に連絡する体制を整えている。コロナ禍においては、アナウンスする行事を精査していたが、少しずつ、アナウンスできる行事が増えてきた。

⑥ 各種広報資料の作成と配布

柏稜の魅力を十分に伝え得るパンフレットを目指して、平成 29 年度から毎年見直しを続け、平成 30 年からは学校パンフレット作成経験の豊かなデザイナーを入れて改善を図ってきた。また、ホームページについても若手の教員が中心となってニュースの更新を行っている。

平成 31 年度から、秋の中学校訪問の際に、「中学校教員が三者面談において生徒・保護者に柏稜を勧めるための材料を提供する」という目的で新たな配布資料を作成した。現在の柏稜の取り組みの中で、特に力を入れていることをPRするリーフレットとして、中学校側の反応も良好だったため、令和 5 年度も継続した。

(2) 入学試験

本校では、1 月に特別奨学生を含む推薦入試、2 月に一般入試を実施している。推薦入試では、人物・意欲に重点を置いて面接試験を行っている。一般入試では、基礎的な事項を中心に学力を判定し、面接によって人物・意欲を判定している。また、一般入試の際に受験者にアンケートを実施し、入学手続き終了後に分析を行った。本校の公立併願校や私立で迷った高校、本校の志望順位等を把握し、令和 6 年度以降の生徒募集に生かすように心がけた。

<生徒情報共有のための中学校との連携>

高校での指導をスムーズに進めるために、中学校からの情報提供は非常に重要である。特に、病気その他の事情による長期欠席のある生徒や、特別な配慮を必要とする生徒の情報は不可欠なものである。入試直前における中学校からの生徒情報の提供件数、相談件数は次の表の通りである。令和 6 年度入試においては、下記の他に、出願書類に事情説明の書類が添付されていたケースが 40 件、調査書内容から事情確認が必要と判断しこちらから問い合わせを行ったケースが 2 件あった。

ただ、配慮が必要であるにもかかわらず、中学校からは全く連絡が入らず、入学後の保護者からの相談等で初めて事情が判明するケースや、別室登校・保健室登校等で欠席扱いになっていない「隠れ不登校」も数多くあり、対応に苦慮している。

【入試直前における中学校からの情報提供・相談件数】

	H29 入試	H30 入試	H31 入試	R2 入試	R3 入試	R4 入試	R5 入試	R6 入試
情報提供・相談件数の総数	45	60	54	69	79	75	48	46

(3) 生活状況等に関する調査（12 月）

例年実施している生活状況等に関する調査から、下記のような結果が得られた。

① 学校案内やホームページの閲覧状況

学校案内（パンフレット）は「しっかり読んだ」「部分的には読んだ」という人が 78.4%、

HPを見たことがあるという人が 89.1%と、いずれも良く活用されていることが確認された。どちらもさらに内容を充実させ、見やすいものへと工夫していくことが大切と考えている。

② 学校見学会

2回の学校見学会に、中学生延べ215名、保護者延べ95名が参加してくれた。他校との日程重複が当然あり、中学生は興味のある高校を選んで参加するため、1・2年次の進路学習会や、学校案内、HP、リーフレットなどで、まず、柏稜に興味を持ってもらうことが非常に重要である。その上で、学校見学会に参加し受験を決意してもらえるよう今後も工夫を続け、参加者の増加と入学率アップにつなげていきたい。

③ 柏稜に対する印象

「明るい」「楽しい」「先生・先輩が優しい」「温かい」といったポジティブなイメージが上位を占めている。本校で高校生活を送っている生徒たちの生の声を広報活動に生かしていきたい。

(4) 入学金減免制度

入学者の中の経済的負担が大きな家庭に対する配慮として、平成30年度入試から、入学金減免制度を導入し、令和5年度入試においても継続した。令和5年度入学生90名中24名(26.7%)が制度を利用している。

【現状と課題】

函館市内の中学校の統廃合が進み、学校数は減少しているが、多くの中学校から進路学習会講師の依頼を受けている。中学校訪問時に必ず講演・講話について声掛けをし、実際に呼んで頂いた際には本校のPRをしつつも、「中学生のためになる講話」、「中学校の先生方の進路指導を助ける講話」を心掛け、継続的に進路学習会講師の依頼が来るようにしている。

令和6年度入学者数は115名で、令和5年度に比べて若干の改善が見られた。15歳人口の減少、道立高校入試における自己推薦制度への完全移行、受験層が上に伸びて道立高校へ抜けていく数が増加したこと等、様々な原因が考えられるが、選ばれる学校になっていくための過渡期ととらえ、数年来、本校が推し進めてきた「学習力・基礎学力」「ICTスキル」「外国語によるコミュニケーションスキル」「実践力」の向上を継続した。その上で、成果を正しく広報し、「絶対に柏稜に行きたい」という第1希望志願者を増やすことを意識して募集活動を行った。

2. 組織運営

(1) 教員の組織

学年主任・各分掌部長・教科主任の呼びかけによって、独自に打ち合わせ会議を持つことが増えており、情報共有・意識の統一が順調に進んでいる。

また、教員数の減少にあわせ平成30年度に特別活動部と厚生部を統合し、「特活厚生部」としたが、5年目に入り教員側は効率的な動きができるようになってきており、その分、生徒自身に考えさせる、自主的に行動させることが増え、より良い学びを実践できるようになった。

(2) 教員の個人年度目標・計画

教員には新年度に個人の「年度当初の目標・課題等」の提出を義務付け、年2回の教員面談を実施している。「年度当初の目標・課題等」のシートでは「学習指導」「進路指導」「校

務分掌」「生徒指導」について、目標と具体的な取り組み、達成状況と今後の課題について記載することとしている。令和5年度も令和4年度に引き続き、学習指導について新学習指導要領とICT活用に関する記載を義務付けた。また、令和5年度は、クラブが持つ教育的効果を今まで以上に引き出すため、クラブ指導の面だけでなく自己研鑽や進路指導、地域貢献に係る内容も記載することになっている「クラブ指導に係る評価シート」に加え、「クラブ目標シート」も提出させて指導を行った。

それらをもとに、面談の際に、目標の進捗状況、課題の解決状況、クラブ指導、授業改善等、学校業務の様々な面について指導している。

(3) 職員の組織

本校の事務職員は、事務長をトップにして専任が4名、パートタイムが1名の5名体制である。近年、就学支援金制度の開始ならびにシステム変更（「e-shien」システム正式運用開始）に伴い、扱う情報量が急激に増加し、それと同時に事務作業量も急増している。また、以前より多くの個人情報事務室に集まるようになりその管理も課題である。

令和5年度は、事務の効率化・適正化を目指して、事務長を中心に数多くの業務見直しを行ったが、令和6年度以降も改善を進めていくと同時に、ジョブローテーションによって互いにカバーできる範囲を広げていく。

(4) 教員による学校評価

教員による学校評価を年度末に実施しているが、集計結果は22～23ページに掲載している。全体の平均は3.59で令和4年度よりも0.6ポイント高い数値となった。

個別の項目に目を移すと、「クラブ数」「教員と事務との連携」「地域との連携」「ハラスメント」などの項目で3.0を切る結果となっている。いずれも近年、課題となっている部分であり、令和6年度には改善委員会等を組織し検討していきたい。また、他の項目に目を移すと、ICT関連等、改善を始めていてもまだ十分でないと思われる部分や、改善が進んでいても今後より一層重要度が増す部分はポイントが低くなっている。そういった意識を令和6年度以降の改善につなげていきたい。

コロナ対応・新学習指導要領への対応・観点別評価の導入・ICT化・授業・分掌業務・生徒指導・クラブ指導など様々な場面で今までと違った対応が求められている。特に、個別対応が必要な生徒が増えており、教員の負担が大きくなっていることが大きな懸念材料である。

(5) 学校関係者による学校評価

学校関係者評価は、年度末にPTA役員に実施している。結果については24ページに掲載している。令和5年度はPTA研修の再開や学校祭でのPTA模擬店実施等、新型コロナウイルス感染症5類移行に伴って、少しずつ活動を取り戻すことができた。3項目で昨年を下回る結果となったが、3項目とも本校が力を入れて指導している部分であり、そういった内容がPTAに周知されていないことが原因かと思われる。令和6年度についてはそれらの講話や学びをPTAにも案内するなどの対応を行い、教職員と保護者が一緒に生徒の成長を見守れるようにしていきたい。

【現状と課題】

生徒により良い教育を提供するために、学校における様々な活動について見直しを行い、それに伴って学校の組織も見直しを図っている。少しずつ改善は進んでいるがまだまだ十分とは言えず、業務の精査や在り方の見直しを今後も継続していかねばならない。

3. 地域連携

(1) 地域社会への貢献

夏祭りや餅つき、乃木神社例大祭のボランティア、町会の新年会、柏稜PTA研修への地域住民参加、柏木町会との合同清掃、避難訓練同一実施、柏稜祭の地域開放等、新型コロナウイルス感染症の発生前は、柏木町会を中心とした学校周辺地域と多くの場面で関わり、様々な機会に交流を持ってきた。

令和5年度は上記のうち、夏祭り、合同清掃等を再開することができた。地域との交流はまだまだ以前のように行かないが、社会福祉部が定期的におこなっている柏木町会の清掃活動は継続することができた。

(2) PTA活動

「柏稜祭」での出店、PTA研修会、校内スポーツ行事でのPTA賞提供などを行ってきた。令和5年度は、本校の総会・懇談会・PTA研修、高P連道南支部の総会や研修会等、少しずつ以前の活動が戻ってきている。

(3) 同窓会活動

近年、同窓会参加者の減少傾向が続いており、その打開策として、年度ごとに積極的に声掛けをする学年を決めて同窓会との連携を図ってきた。

令和5年度は、3年振りに、同窓会総会・懇親会を開催することができた。

【現状と課題】

地域連携は今後も重要な課題である。現在の教育改革においても「地域に開かれた学校」、「地域とともにある学校」であるということが重視されており、連携を強化することは本校にとっても、生徒にとっても、そして地域にとっても大きなプラスとなり得る。

新型コロナウイルス感染症が終息し、通常の生活を取り戻し、今まで以上に地域との連携を深め、貢献していきたい。

4. 校内研修

(1) 授業・学習指導方法の改善

全学年ならびに教職員へのiPad貸与、全校生徒へのoffice365のアカウント発行、電子黒板設置、校内Wi-Fi整備、スタディサプリ等のアプリ活用等、ICT活用を推進する環境は以前から整っていた。令和5年度は体育館のWi-Fi整備、英語科の希望によるEnglishcentral導入などの取り組みを新たに行った。

ICT活用委員会による教員研修、教員間の相互研修等により教員スキルは年々向上している。電子黒板は全ての教員が活用している状態であり、また、全学年にiPadが行き渡ったことにより、授業だけでなく、行事や連絡事項、各種申し込み、アンケート等の場面でも活用が進んだ。

総合探究や観点別評価についても委員会が中心となり、分析を進めた。

③ 授業時数の確保

1単位当たり35時間という文部科学省が定める数字は確保できた。1クラスのみ、学級閉鎖による1時間不足はあったものの、文部科学省の指針では問題ない。むしろ、教員の働き方改革の観点から、1単位当たり35時間を超える授業実施を見直すよう通知が出ている点から、令和6年度以降、授業実施の更なる効率化を心掛ける必要がある。

② 「スタディサプリ」に関する研修

導入 5 年目ということもあって教員の理解は深まっている。数学科による反転授業への活用等、新たな活用も始まっている。令和 4 年度 1 年生から「総合的な探究」の時間にリクルート社スタディサプリのパッケージを活用しているが、事前の打ち合わせを丁寧に行うことで、混乱なく、スムーズに活用できた。生徒のプレゼンテーションやまとめの資料等々から、単に調べたものをまとめて発表しているわけではなく、生徒たちが自身で、もしくはグループで思考し考察していることがうかがえた。

(2) 危機管理

① 防災対策

コロナ禍においては避難時の密を避けるために、函館市消防の助言を受けて、消防署が監修している防災教育の DVD（津波・地震に関する教育動画）を各教室で視聴しまとめを行う形で防災対策を行っていたが、令和 5 年度は 3 年ぶりに実際に避難する形での訓練を実施することができた。中学校時代にも、避難訓練を受けていない生徒が多く、適切な避難行動がとれるかという懸念があったが、事前指導をしっかりを聞き、非常にスムーズな避難行動ができた。

本校は函館市指定の避難所となっているため、市より防災備品が届いている。現時点で保管している防災備品は次の通りである。これとは別に、学園独自の備蓄品のうち柏稜として隣接の函館看護専門学校に、次の物を備蓄している。

- ・保存水 24 本入り 20 箱
- ・保存用カンパン 60 食入り 24 箱
- ・組み立て式簡易トイレ 5 台
- ・簡易トイレ用の便袋 500 回分 5 セット
- ・毛布 230 枚
- ・カセットコンロ 2 台
- ・カセットボンベ 3 本 2 組
- ・ダンボールベッド 12 台

(以上、函館看護専門学校備蓄)

【函館市より提供を受けた物品】

備蓄品一覧						
物品名	柏 稜				総個数	単位
	1箱個数	単位	箱数	単位		
ポータブルストーブ					5	台
発電機					1	台
発電機用ガソリンタンク(20ℓ用)					1	個
発電機用オイル					1	本
メタハイドライト(照明)					3	機
照明用三脚(2照明用と1照明用各1台)					2	台
コードリール(発電機からの延長用)					1	台
缶詰パン						
アルファ米						
水(500ml)						
毛布						
簡易トイレ						

② 授業中の事故

保健室における応急の対応はするが、基本的には保護者に連絡し対応してもらうか、状況によってはためらわずに救急車を要請し対応する。病院への付き添いが必要な場合には、担任や養護教諭に固定せず、医師への説明を想定し、事故の状況がわかる教員（例えば、体育の授業中の事故であれば担当の体育教師）が同行し、その後担任と交代するなどして確実に保護者に引き渡している。

③ 新型コロナウイルス対策

生徒・保護者・教職員それぞれが新型コロナウイルス感染症の対応にも慣れてきた。また、5月には新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、少しずつ日常が戻りつつある。ただし、中学校時に「無理をしない」ように指導されてきていることもあり、容易に欠席・早退を希望するケースも見られる。体調管理面の指導はもちろん継続しつつ、「頑張る」指導を少しずつ行っていく必要がある。特に、不登校歴のある生徒や精神的な不安を抱える生徒が数多くいるため、丁寧に指導していかねばならない。

④函大柏稜安心メール・スタディサプリのメッセージ機能の活用

2018年9月の北海道胆振東部地震とその後の大規模停電(ブラックアウト)の際、電話連絡網が機能しなかったことを踏まえ、2018年10月から一斉送信メールのシステムを導入している。函館市内の多くの小中学校で導入されているため保護者の理解もあり、以前から100%に近い登録率となっていたが、令和4年度はコロナ関連の緊急連絡が必要な場合に備えて登録を徹底したことに加え、折を見て確認メールを送信して有事に備えた。実際に、新型コロナウイルス関連の連絡が必要となった際、全校・学年・学級別の連絡が可能であったため、大いに役立った。

また、スタディサプりにメッセージ機能が追加されたため、保護者宛ては安心メールで、生徒宛てはスタディサプリーで配信するという2本立てでの情報伝達が可能になった。

【現状と課題】

令和4年度から、過去に類を見ない大きな改定とされた新学習指導要領に則り、新たな教育活動を展開している。さらにはコロナ禍においてGIGAスクール構想が前倒しされ、ICT活用の推進も求められている。

このような現状においては、積極的に学校外の研修に参加し、その内容を校内研修で全教員にフィードバックすることが理想だが、校外における様々な研修が中止となっているため、校内研修が中心となった。

それでも、Zoomなどのアプリを利用したオンライン研修への参加や、ベネッセやリクルート等、教育関連の事業を手掛けている業者と連携しながら、校内の委員会が企画した各種研修を実施することができた。令和6年度においては、少しずつでも校外研修への参加を促していきたい。

危機管理に関しては、引き続き函館市とも協力して災害備品の整備を進め、市の避難所としての役割も果たしていきたい。街中にありスポーツ施設も隣接していることから、車や人の校地内の通り抜けもあるため、注意喚起の看板や危険防止のミラー設置も行った。また、録画型のWebカメラの設置も行い、新たな不審者対策も進めることができた。

5. 施設・設備等

(1) 図書室の運営

図書室の持つ重要な役割を考え、図書室・図書委員の活動がより活性化するよう工夫している。書籍スペースが狭いため、古い図書の除籍処理と貸し出し率の高い新しい図書の購入を進め、稼働率の上昇を目指している。令和4年度には生徒リクエストの受け付け方や購入図書の審議・承認の流れを整理し、図書購入の機会を増やした。令和5年度以降も読書環境の整備に努め、読書習慣を定着させていきたい。

(2) 保健室の運営

(ア)生徒の定期検査と健康管理・日々の対応

健康診断の項目・時期・該当学年

項目	場所	時期	該当学年
健康調査	校内	入学時	1 学年
身体計測		4 月	全学年
視力検査		4 月	全学年
聴力検査		4 月	1・3 学年
尿検査	中央病院健康管理センター委託	4 月	全学年
心電図		4 月	1 学年
レントゲン検査		4 月	1 学年
内科検診	学校医来校	4 月	全学年
歯科検診	歯科医来校	6 月	全学年

令和2年度に、新型コロナウイルス感染症の関係により、各検査の実施時期については弾力的に対応して構わないとの通知が出され、本校でも医療機関と相談しながら検査時期を変更して行っていたが、令和5年度はコロナ禍以前通り、早いタイミングで各検査を実施できた。

これらの検査項目については、生徒の安全な学校生活・充実した学びを進めていく上で早期に実施するに越したことはなく、令和6年度以降も関係各所と連携をしながら早めの実施を心掛ける。

保健室の利用状況

年度 ()は在籍数	内科的	外科的	その他	相談	総計 ()は 在籍数に対する%
平成31年度 (329名)	451	221	43	221	936 (284%)
令和2年度 (389名)	448	221	41	184	894 (230%)
令和3年度 (395名)	453	198	59	79	789 (200%)
令和4年度 (414名)	379	218	42	38	677 (164%)
令和5年度 (355名)	366	160	32	29	587 (165%)

自分の症状を正確に認識し表現することが不得手で上手く伝えられない、身体以外の自分が抱えている問題への対処法が身についておらず不安でただ泣いてばかりいる等、精神的に未成熟な生徒が増え、対応に時間がかかり保健室滞在時間が長くなる生徒が増えてき

ている。小中学校時に不登校歴または不登校傾向のあった生徒や、欠席扱いにはなっていないが別室登校を行っていた生徒の入学が増え、学年団が丁寧なサポートを行っているが、それとは別に「思いを受け止める存在」としての養護教諭の役割が大きくなってきている。

新型コロナウイルス感染症は5類へと移行したが、令和5年度は記録的猛暑に襲われ、熱中症対策ならびに熱中症対応を徹底した。今後も継続的に衛生管理ならびに予防指導を徹底していく。

スポーツ振興センター災害給付状況

年度	発生件数	給付件数	給付額
平成31年度	21	86	1,122,536円
令和2年度	17	61	1,078,230円
令和3年度	15	41	318,312円
令和4年度	13	49	922,952円
令和5年度	8	29	497,443円

スポーツ振興センター災害給付状況については上表の通りである。クラブ加入率の低下、函館市で高校生まで医療費がかからなくなったことの影響か、例年よりも少額の給付となった。

<生徒の精神的・肉体的な支援>

高校生としては幼い生徒が多く、特に困難・挫折・トラブルに直面し、乗り越える経験が少ない生徒が多い。自分の気持ちや怪我・病気の症状をうまく伝えることができない生徒が多く、症状を把握する上で粘り強く対応することが肝要となる。また、友人間のトラブルの原因の中にも、コミュニケーションをうまく取れないことによるものが多く見受けられる。

現在推し進めている、生徒の「自立」を目指した指導の中で精神的な面での成長を促していくために、来室者の話に耳を傾け、励まし、助言し、そして担任団と連携をしながら、生徒自身の力で乗り越える経験をさせたいと考えている。

肉体的な支援としては新生入生に健康調査を実施し、日常生活、体育の授業およびクラブ活動に支障のある病気やアレルギーを把握することにより、校内のみならず、クラブ活動での合宿や遠征時においても教育的な配慮ができるよう心がけている。また在校時に怪我や病気が発生した際には、保護者との連絡を速やかにとり、早退や通院等の対応をとっているが、最近では保護者と連絡が取れず、自宅に家族が不在等で対応に苦慮することが多くなっていることが問題である。その一方で、病気や怪我の相談だけでなく、学校生活全般にわたる様々な問題の相談のために養護教諭との面談を希望する保護者も増えてきている。

<スクールカウンセラーとの連携強化>

平成24年度より週1日配置されているスクールカウンセラーとの連携を強化している。特別な配慮を必要とする生徒や保護者への対応は、担当教諭・学年主任・クラブ顧問・養護教諭・スクールカウンセラーでチームを組んで行っている。直接カウンセリングを受けたくないといった生徒の問題も、養護教諭や担任がスクールカウンセラーと情報を共有し、対応や支援の方法を相談している。

<教職員の健康診断について>

教職員の健康診断は毎年 4 月に実施しているが、再検査となった教員は必ず受診して受診報告を全員がしている。

(3) 施設・設備

① 安全面からの対策

日頃から校舎内外の施設・設備に目を配り、生徒が安心して学校生活を送れるよう心掛けている。新型コロナウイルス感染症対策・熱中症対策に必要な物品についても公的な補助や学校予算から準備した。令和 5 年度は、非接触型体温計・サーキュレーター・空気清浄機・スポットクーラー・消毒用アルコール・ポンプ・予備マスク・ゴム手袋等の新規購入・追加購入を行った。

また、熱中症対策のために教室・事務室・職員室・校長室等にエアコンを設置した。また、冷房効率を考え、教室には遮熱カーテンも設置した。

② 校舎の設備関係

日頃から校舎内外の安全に留意し、学校安全計画に則って安全管理を行なっている。日常の点検の他、大きな学校事故が起こった際には北海道教育委員会や学事課等から発出される通達に則って臨時の点検を行っている。

【現状と課題】

教育活動を安心・安全に行うため、日常的に施設・設備に注意を払い、事故の未然防止に努めている。より安全な環境を整備すべく努めているが、施設・設備の老朽化が進んでおり、手を入れる個所が毎年出てきている。また、スペース的にも余裕が全くないため、少しでも効率の良い教育環境を整えること、また環境維持を心掛けて、令和 6 年度以降も随時見直しを図っていく。

また、令和 5 年度末にエアコンを設置したが、今後も夏季の高温は継続するであろうことが予想され、年間の電気料金・クリーニング等の維持費等も確認しながら、長期的・計画的に管理運用していく必要がある。

6. 管理・運営

(1) 安全教育・安全対策

① 生活・交通の安全教育・安全対策

< A E D (自動体外式除細動器) の設置 >

平成 18 年より、2 か所 (正面玄関ならびに石川グラウンド) に A E D を設置し万が一の事態に備えている。新型コロナウイルス感染症対策のために学外者の来校を制限していたために、近年は A E D 講習は行っていなかったが、令和 6 年度は、赤十字や A L S O K の協力を得て講習会を再開したい。

< 薬物・性教育等の講演会 >

例年、性について、薬物について、煙草と健康について講話を行っている。性については 1 年生を対象に、「函館 性と薬物を考える会」のメンバーで函館在住の産婦人科医の方に講話をお願いした。煙草と健康については 1~2 年生を対象に協会病院の方に講演をお願いした。

薬物に関しては、1・2 年生を対象に函館中央警察署から講師を招き、講話をお願いした。特に、薬物に関してはここ数年函館市内でも薬物汚染の拡大が懸念されており、教護連盟その他の機会によく話題になっている。現在のところ、本校生徒に事例はないが、中学校では

報告事例もあり、今後一層の注意が必要である。

<交通安全講習会>

毎年、年度初めに函館自動車学校の協力を得て、校内で自転車運転安全講習会を実施している。令和5年度は函館自動車学校から講師をお招きし、講習会を実施した。自転車同士、または自転車対自動車あるいは歩行者も絡んだ事故が増加しており、今後も指導を継続する。また、以前よりは減少しているものの、自転車の通行、駐輪等のマナーにも問題があり、苦情の電話が入ることがある。電話等により危険な状況を把握した際には、全校生徒に注意を呼び掛けるとともに、生徒指導部や副担任を中心に当該箇所へ指導に出るようにしている。

<ケータイ・スマホ安全教室>

これからの社会を生きていく上で、ICTスキルは必須であり、本校でも積極的に活用を進めているが、その一方で、スマートフォン・SNSが関係したトラブルが全国的に問題となっている。HRや情報の授業等でも「安全な使用」について指導しているが、令和5年度はKDDIから講師を招いて、安全教室を実施した。

(2) 財務関係

① 納付金

高等学校等就学支援金等で複雑化する学費引き落としパターンに対応するために平成26年度に学納金引き落とし管理システムの更新を行うと共に引き落としができなかった場合に、ゆうちょ銀行振込票での入金をできるようにし徴収の効率化を図った。また、学納金引き落とし管理システムについて更新サポートが切れたため、令和5年度から新たなシステムを導入し、スムーズかつ正確に運用できた。

またICT環境の充実をはじめ、より一層の教育充実をはかるために令和5年度から新たに教育充実費を徴収した。

② 教育費の負担軽減

教育費の負担軽減として国から「高等学校等就学支援金」、北海道から「私立高等学校等授業料軽減制度」、「奨学のための給付金」を活用できるようになり、経済的に厳しい家庭の学費負担が軽減され、私立高等学校への就学がさらに容易となった。これらを活用すると、授業料のほとんどが補助される世帯もある。

これらの制度を中学生ならびに保護者に周知していくことも、入学者を増やす大切な方策である。平成22年度に設けられた就学支援金制度が平成26年度入学生から新制度に移行し、経済的に厳しい家庭の学費負担がより軽減され、私立高等学校への就学がさらに容易になった。北海道による授業料軽減と併せると、授業料のほとんどを補助される世帯もある。

これらの制度を中学生ならびに保護者に周知していくことも、入学者を増やす一つの方策と考えられる。

③ 補助金

「私立学校管理運営費補助金」の「特色教育加算」に関する取り組みも認められ補助金が交付された。

本校では実施できなかった項目もあるが、今どきのようなことが学校に求められているのか、時代や社会のニーズを把握するようにアンテナを張って教育内容の充実に努め、次いで教職員の補助金に関する意識を高め、加算項目の取りこぼしがないように注意していきたいと考える。

④ 予算・決算

<編成方針と執行>

厳しい財政状況の中、各支出科目の内容を吟味し、教育効果が上がるよう効率的な予算編成を目指していく。

期中においては、日常業務にも追われ、執行時期が遅れる事があり、反省すべき点である。

この反省点から、常に執行状況に注意を払い、的確な予算運用に努めていくが、予算未計上の突発的事案については、学園本部に稟議をあげ、対応していくこととなる。

また、修繕作業等の予定が入った場合には、授業・補習・検定等に支障が出ないように、スケジュールの管理を怠らないように注意していく。

<収支のバランス>

柏稜高校は経常収支差額比率が0.9%、教育活動資金収支差額比率が8.2%となっている。今後、施設設備の老朽化による修繕や改修が増えてくることが予想され、無駄な経費の削減により支出を回り収支のバランスの均衡に努めていく。

【現状と課題】

国の就学支援金、道の授業料軽減補助、奨学のための給付金制度など、経済的支援は充実してきたが、その分、事務作業は年々増加している現状である。また、制度変更・システム変更も実施されており、今後も細心の注意を払っての対応が必要である。ただし、マイナンバーの活用なども始まり、事務負担が軽減されてきてはいるが、まだまだ注意深く事務処理を行う必要がある。

「管理運営補助金」の「特色教育加算」の獲得では、教員との連携を密にして取りこぼしの無いよう心掛けている。

令和5年度 学校評価表

No. 1

点検項目	No	評価項目	良	並	悪	評価点
			5	4	3	
・学園理念	1	学園訓の教えが理解されるよう、様々な機会に学園訓について触れていると思いますか。				3.59
・学園理念	2	学園訓の教えを、教育活動全体を通じて生徒たちに体得させられていると思いますか。				3.67
・教育活動	3	教育活動を通じて「自立」した生徒の育成に努めていると思いますか。				3.74
・教育活動	4	ICTや学び直しを通じて、生徒の基礎学力や学習力の向上に努めていると思いますか。				4.00
・教育活動	5	これからの時代に必須のICT活用能力の養成に努めていると思いますか。				4.11
・教育活動	6	ICT教材の活用、ALTとのコミュニケーションを通じ、異文化を理解する姿勢や能力の養成に努めていると思いますか。				3.67
・教育活動	7	総合的な探究の時間において、様々な視点を獲得し、思考力や表現力を高めていく総合探究が展開されていると思いますか。				3.93
・学習指導	8	生徒の能力、適性等を考え、教科指導計画が立てられていると思いますか。				3.85
・学習指導	9	学力や意欲の向上のため、適切な指導と評価がなされていると思いますか。				3.81
・学習指導	10	現在の講習・補習システムが生徒の学習意欲を喚起するために機能していると思いますか。				3.63
・学習指導	11	生徒の学力向上のために、年間授業時数が十分に確保されていると思いますか。				4.26
・学習指導	12	生徒の学習習慣の定着のため、適切な働きかけができていると思いますか。				3.44
・生徒指導	13	教師と生徒の信頼関係を育てることが、指導の根底におかれていると思いますか。				3.93
・生徒指導	14	家庭や各組織との密接な連携のもとに、組織的な指導が行われていると思いますか。				3.89
・生徒指導	15	本校の生徒指導は、基本的な生活習慣の確立につながっていると思いますか。				3.70
・進路指導	16	進路指導部との連携のもとに、的確な情報・資料を提供し、計画的、組織的に指導していると思いますか。				4.22
・進路指導	17	個別指導など進路相談を充実することにより適切な援助・指導がなされていると思いますか。				4.04
・進路指導	18	キャリア教育の充実を基礎として将来的な視点に立った指導が行われていると思いますか。				3.85
・進路指導	19	生徒の進路実現に向けて、外部試験の結果を分析し、指導に生かすことができていると思いますか。				3.48
・クラブ指導	20	本校の部活動は、活動を通じて生徒の成長を促すものになっていると思いますか。				3.56
・クラブ指導	21	部活動の数は、生徒数・教員数から考え、適切だと思いますか。				2.15
・学校行事	22	生徒の成長につながり、高校生活の思い出となる、創意に富んだ行事が展開されていると思いますか。				3.74
・学校行事	23	それぞれが役割を分担し、相互に協力して学校行事の成功に向けた活動ができていると思いますか。				3.48
・学級活動	24	社会やクラスの一人としての自覚や責任感を育み、生徒の学びとなる学級活動が展開されていると思いますか。				3.67
・生徒会活動	25	生徒会活動において、生徒の自主性を高め、成長を促す指導がなされていると思いますか。				3.74
・生徒会活動	26	各種行事やあ生徒会の活動を教員が十分にサポートできる体制が整っていると思いますか。				3.48
・学校運営	27	学校の将来像を見据えた運営が行われていると思いますか。				3.11
・学校運営	28	充実した教育活動のために、ICT環境や校内環境が適切に整備されていると思いますか。				4.22

令和5年度 学校評価表

No. 2

点検項目	No	評価項目	良 ← 並 → 悪	評価点
			5 4 3 2 1	
・分掌組織	29	分掌内における連携が十分行われ、調和のとれた活動ができていると思いますか。		3.56
・分掌組織	30	校務分掌は、校務を運営する上で、効果的に機能していると思いますか。		3.63
・教育課程	31	生徒の能力、適性、進路に適合するよう教育課程が編成され、実施されていると思いますか。		3.70
・教育課程	32	普通科において情報教育を充実することが、本校の教育活動に有益であると思いますか。		3.96
・コース制	33	本校のコース制(総合進学コース・情報ビジネスコース、TCコース・SCコース)は、生徒の進路希望の実現につながるものとして設定されていると思いますか。		3.63
・学級運営	34	学年団の連携と協力のもと、各学級が適切に運営されていると思いますか。		3.78
・学級運営	35	学級担任・副担任は生徒の能力や個性を把握し、それに応じた指導をしていると思いますか。		3.67
・関連校連携	36	教育活動、生徒の進路等の面で、学園内における連携が図られていると思いますか。		3.15
・各種研修	37	校内外での研修会参加や他校訪問などが、教師の資質向上のための有効な手段になっていると思いますか。		3.37
・各種研修	38	講師を招いての講話や分析会などの研修は、指導や教育活動に役立っていると思いますか。		3.59
・各種研修	39	健康安全教育の禁煙・薬物・交通安全に関する講習・研修会は生徒のために意義あるものになっていると思いますか。		4.04
・連携	40	柏木町会等、地域社会との連携は図られていると思いますか。		2.70
・連携	41	PTAとの連携は図られていると思いますか。		3.22
・連携	42	本校ではボランティア活動が十分に行われていると思いますか。		3.07
・連携	43	本校の行事等の様々な活動は、地域社会に認知されていると思いますか。		3.00
・生徒募集	44	学校見学会で、中学生や保護者に、効果的に本校をアピール出来たと思いますか。		3.96
・生徒募集	45	現在の中学校訪問による生徒募集システムは効果が上がっていると思いますか。		3.89
・管理運営	46	本校の危機管理に対する体制は整備されたものと思われますか。		3.15
・管理運営	47	事務と教員の連携は上手く図られていると思いますか。		2.56
・各種予算	48	教育活動を充実させるため、効率的な学校運営を行うため、予算の計画・執行が適切に行われていると思いますか。		3.52
・社会的責務	49	本校では、個人情報の取り扱いに関して注意深く慎重に行われていると思いますか。		3.67
・社会的責務	50	教職員は、ハラスメントについて十分に注意した言動をとっていると思いますか。		2.89

令和5年度学校運営に関する学校関係者評価		
函館大学附属柏稜高等学校		
評価	5、そう思う	4、どちらかと言えばそう思う
	3、どちらとも言えない	2、どちらかと言えばそう思わない
	1、そう思わない	
I 学校運営の状況	平均	昨年
1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。	4.5	3.9
2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。	4.5	4.3
3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。	4.4	3.9
II 授業等の状況		
4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。	4.4	4.0
5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。	4.4	3.6
6、学校は、授業・行事等の教育活動において、ICTを積極的に活用し、スキルの伸長に努めている。	4.4	3.4
7、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。	4.3	3.4
III 生徒指導・管理の状況		
8、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的生活習慣の指導を充分行っている。	4.0	4.4
9、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。	4.0	4.3
10、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。	4.5	4.5
11、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。	4.0	4.1
IV 家庭・地域との連携協力の状況		
12、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。	4.1	3.6
13、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。	4.1	3.3